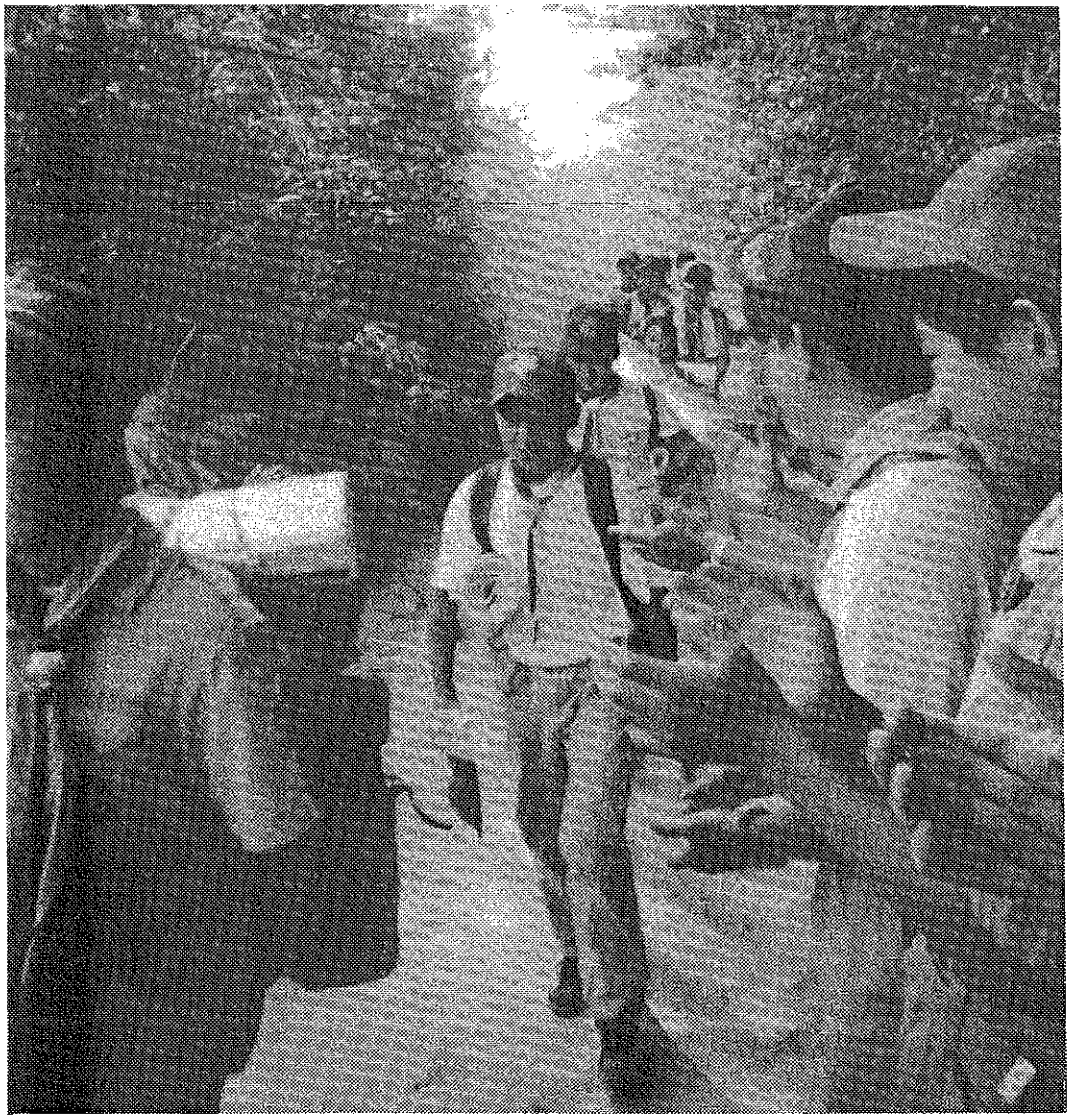
1995

平成７年度　ボーイ隊　夏季野営

報告書



平成７年８月１７日～２２日　実施

於：信楽野営場

日本ボーイスカウト　京都連盟

京都第３８団　ボーイスカウト隊

第一日目　行動記録

平成７年８月１７日（木）

０６：１５	本部スタッフ　長休寺集合　（車輌２代）
	今井隊長、河合副長、末吉副長補、出口副長補、山田上班
	八木隊付、奉仕：入矢、江本（務）、山田（哲）
０６：３０	スカウト集合　後、出発。スカウト同行者（河合、出口、山田）
０７：０２	市営地下鉄乗車　乗車
：３３	ＪＲ　乗車
	京都駅にて北野が頭痛を訴える、薬等の処置はせず。
０８：２５	本部車輌組、信楽野営場着
：３１	紫香楽宮跡駅着
：４０	荷物点検（野営地入口）、北野のみ本部サイトで休ませる。
１０：２０	開村式
：４０	設営宣言
：４５	班サイト区割り
	一年目の三谷と津田が石の投げ合いをし、津田の後頭部に当たり
	浅く切傷をした。このことに対して両者ともに厳重注意。
１１：００	スカウト設営開始
１２：４５	北野をいったん班作業に戻す
１３：００	本部昼食
１４：００	滋賀県連　吉久氏と鈴鹿地区委員長が地区行事の下見にくる。
１７：００	各班若干の遅れあり。野牛班のみ立ちかまどにて炊事を行う。
	ほか２班は堀かまどにて炊事の準備
	北野再度体調不良を訴える。数分の安静後、班作業に復帰。
	本部　いすの補強及び、食器棚兼用調理台完成。
１９：５０	「歓迎の営火」
	星空の下ボーンファイアーによる営火。
２０：２０	営火終了
：３０	シニア隊　山田（哲）、江本（務）帰路
２１：００	班長会議
２２：００	本部会議
２３：００	点検作業、各自個人作業

本日の連絡事項

１７日現在スカウト　１５名；欠席者　ｶﾝﾈﾍﾞﾙｸﾞ（野牛）、江本（鷲）、中沢（鯱）

・スカウトのふざけ合いや不注意からくる事故の防止と、健康管理に注意する

・滋賀県連　鈴鹿地区が１９～２０日に地区キャンポリーを予定。詳細は後日。

第２日目　行動記録

平成７年８月１８日（金）

０６：３０	起床・配給　担当者の寝坊のため遅れる
０７：００	本部全員起床完了
：３０	山田上班を起こすが頭痛のため熱を計る。39.2度の熱があった。
	上班を急遽、八木に交代
０８：３０	点検　　スカウト、本部とも食事の準備が遅れる。
０９：００	朝礼
１０：３０	午前プロ「体力づくり」
１１：１５	江本（勝）、スカウト　江本、中沢　入所
	江本、中沢はそのままゲーム参加
１２：４５	本部昼食
１４：３０	末吉、入矢、一泊ハイク下見出発
	隊長山田上班の熱が下がらないため、紫香楽病院に
	診療につれていく。原因が分からないが解熱剤と点滴を打つ。
１６：００	鈴鹿地区吉久氏、来営。キャンポリー会場の打ち合わせ。
１７：００	山田上班帰営。
１８：３０	ハイク下見組帰営。配給不足品買いだし。
１９：３０	夜間訓練「暗夜行路」。
	中沢がランタンでやけどをし、ゲームに参加せず。
２０：３０	夜間ゲーム終了。
２１：００	本部夕食。
：４５	班長会議。
２２：３０	本部会議。
２３：００	河合、八木、入矢消灯
０３：００	今井消灯。末吉、出口は徹夜で作業する。

本日の連絡事項

・各自の健康管理には十分配慮し、その上でスカウトの安全管理を行う。

・配給品等の申し込み漏れが多数ある。店頭にてできるだけ確認する。

・本部の作業能率の低下が目立つ。付随してプロが遅れるのは許し難いので気を引き締めた行動をとる。

・明日からの鈴鹿地区キャンポリーに配慮する。

・明日から隊長と入矢副長が入れ替わる。

第３日目 行動記録

平成７年８月１９日（土）

０４：００	本部起床。：お粥等の準備が遅れたため３０分の遅れ
：１５	スカウト起床　末吉が太鼓で起こしに回る。
：３０	「早朝プロ」開始　　続いてスカウツオウン。
０６：２０	今井、江本（勝）、一時帰宅 。
：３０	朝食：本部準備のお粥、梅干し、沢庵、味汁、ほうれん草のお浸し
０７：３０	点検。
０８：０５	朝礼。山田上班回復（復帰待ち）。国旗忘れる。
：３５	本部サイトの整理、八木上班は班サイト周り。
０９：４５	本部仮眠
１１：１０	入矢副長入所。
１２：１５	本部昼食
１３：２０	入矢ASM　、工作物補強。ほか午後プロ。
：３５	午後プロ「救急」。
１４：４０	終了
１７：００	山田上班が復帰。八木解任。
１８：４５	ゲストナイト　各班食事の準備に若干の遅れあり。
	野牛：河合、入矢（次）　鷲：末吉、八木　鯱：入矢ASM、出口
１９：５５	終了
２０：００	夜間ゲーム （～２１：０５）
：４０	シニア隊隊長来営。：すぐに帰る
２１：４０	班長会議
２２：１５	本部会議
２３：００	入矢ASM、末吉の車輌組の下見。
	ほか、ハイクの食事、準備作業後、順次消灯。末吉のみ徹夜。

本日の連絡事項

- 今井隊長が不在。代任、入矢副長。
- 明日からのハイクの説明と準備。
- 準備作業で全員疲労がたまる。特に担当者の末吉が２日連続徹夜。
- 明日保護者見学あり。サイト内清掃を心がける。

第４日目　行動記録

平成７年８月２０日（日）

０７：００	本部起床　前日までの疲労もあって全員寝坊する。
：３０	配給　配給品にまたも不足あり。
	末吉はハイクＯＬのフラッグを付けにかかる。
０８：４５	保護者見学　ジュース、茶、西瓜等多数差し入れ。
０９：００	点検　遅れているため、同時に一泊ハイクの荷物点検兼ねる。
１０：００	講評、朝礼。　２時間遅れで開始。
	フラッグ設置が遅れ、スカウトの出発が遅れる。
１１：３０	下坂団委員長、丹羽団委員来営。
１１：５５	スカウト一泊ハイク出発
	車輌５台：入矢ASM、吉田氏、江本氏、山田氏、丹羽氏
１３：００	保護者昼食、本部各自軽食。
１４：００	保護者帰宅、隊長から電話連絡あり（遅れるとのこと）。
１４：４５	下坂団委員長、丹羽団委員帰宅
１５：１０	上班、八木、末吉、本部サイトに戻り昼食。
：３０	入矢ASM、八木、買い出しに向かう。
１６：００	入矢ASM、上班、スカウトのテント、茶、シュラフを持って出発。
：０８	隊長から電話あり。「花背からの帰りに渋滞に巻き込まれ未だ帰宅せず。帰営が遅れる。」とのこと。
：２０	入矢（次）、本部サイトにて昼食。
：４０	入矢ASM、末吉、八木、上班、再度ハイキングコース見回り。
１８：３０	今井隊長、八木（立）奉仕入所
	末吉、出口帰営。そのまま本日の買いだしに向かう。
１９：３０	スカウト一泊ハイク現地に班長会議のため出発。
	：今井、入矢ASM、河合、末吉、上班
２０：１０	班長会議：　配給予定であったガスバーナーがスカウトに配給されず全班合同で火を使って炊事を行っていた。
２０：５５	本部夕食買いだし。（班長会議の帰路中）
２１：３０	本部夕食。上班のみＳ野営地で夕食。
：５０	本部会議。
２３：１５	入矢ASM帰路。そのころ上班は本部との連絡が取れず、不安になる。
：３０	上班単独に団委員長宅に連絡を取る。
：５０	末吉現地到着。無事の連絡を団委員長に連絡とる。
０３：００	隊長を最後に本部全員睡眠。

第５日目　行動記録

平成７年８月２１日（月）

０７：１５	本部起床
：２０	末吉、指示文を持って出発。
：５０	本部朝食
０８：１０	今井、八木隊付、八木（立）出発。
：２０	お茶の炊き出し係、出口、入矢（次）。
０９：００	末吉、河合、江本、ポイントに出発。
１０：００	ポイント１：八木（キムス）、ポイント２：江本（ソング）、 ポイント３：河合（ロープ引き）
１１：００	江本ポイント２におらず、１時間後遭難と確定（隊長判断）。
１２：００	予定通りスカウトには問題なく見せる。ポイント２の交代入矢（次） 江本の捜索は、出口、八木（立）が徒歩で山道を、今井、末吉が車道及び、山道からの出口を重点的に探す。 今井の判断でスカウトのハイキングは続行し、支障のない最大限度の捜索続行ということになる。
１４：２０	カブ隊入所：西脇CM、岡本ACM、スカウト：福井、中川、竹本、山下 末吉、南。以上６名。
：３０	江本捜索いったん打ち切り。全員帰営。
１５：００	スカウト帰営。拍手で迎え、すぐに閉式に。
：３０	江本捜索開始。末吉、出口、八木（立）、入矢。 捜索隊が乗車しようとした時に江本自力で帰営。捜索隊解散。
１６：００	レセプション準備。メニュー：カルボナーラ、ミネストローネ、唐揚
１７：００	津田夫妻、津田の迎えに来営。いったん外に出られる。
１８：００	営火組み開始。
：４５	「レセプション」（～１９：１５）
２０：０５	「大営火」（～２１：３０）、津田夫妻再度、入矢ASM来営。
２２：００	カブ隊帰路。 津田・山田（津田氏車輌）、福井・西野（入矢ASM車輌）帰宅。 班長会議（～：３０）
：４０	本部会議
０２：００	本部全員消灯。

本日の連絡事項

・鷲班が明日から３人（西口、江本、河合）になる。
・最終日には本部の人為的なミスを無くす。

第６日目　行動記録

平成７年８月２２日（火）

０６：００	本部起床（数名のみ）
：０５	配給　担当者が起きないため上班が変わる。
０７：４０	本部朝食　：米が少なかったため少量の焼きめしとなる。 炊事担当者の起床も遅かった。
０８：００	点検　今井、河合、上班の３人。
：３０	朝礼
０９：２０	各班サイト巡り。今井、上班以外は本部の撤営開始。
１０：００	スカウト撤営開始。
１１：００	撤収奉仕の保護者来営。
１２：４５	昼食。スカウト、本部、保護者
１３：５０	スカウト撤営完了
１４：００	閉村式　：講評等は長休寺にて。
：１５	スカウト帰路出発　：河合、上班付き添い。
	本部の撤営が進まなく、出発が遅れる。
１５：３０	乗車配置にもたつく。
１６：２０	スカウト長休寺着。河合副長、今井に電話するが、到着が遅れるため スカウトに日記等を書かせるという指示。
１７：００	今井が保護者（岡本母）に連絡し到着遅れる由を育成会に連絡頼む。
：４５	車輌到着（：３０中沢、：３５姉川、：４５今井） 備品格納
１８：００	閉所式
：３０	スカウト解散
：４５	本部解散

本日の連絡事項

・撤営作業等でだらけが目立った。そのため撤収時間が遅れた。
・本日撤収奉仕者：中沢さん夫妻、西口さん、山本さん、福井さん、北野さん、
　　姉川さん（今井花松）　　有り難うございました。
・反省会は明日午後７寺よりハウス長休にて。

第２日目　午　前　Ⅰ　プログラム

プログラム名	プログラムⅠ　「体力ポイントアップ」
実施日時	平成７年８月１８日（金）　１０：３０～１１：３０
実施場所	信楽野営場内　　班サイト前通り

内容

・おきてリレー　　今回は一昨年の夏キャンプで行ったもののリメイク版である。　班員全員ポリタンをキスリングの中に入れて、リーダーの所まで行って、おきてのくじを引いて、引いた番号のおきてを言って消化していくというものである。また、グリンバーのみポリタンは２個となる。

・そなえよ常にリレー　　これも同様にキスリング等を持たせるつもりであったが、予想以上に坂道が辛かったのか、かなり体力を消耗しており、訓練具だけを持ったリレーとなった。このリレーの目的は日頃訓練具の中身が充実しているかや、基本的技能を試すものである。基本に関しては、技能にとどまらずソングなども入れ一年目にも対応した。

・レスキューチューブ　〈時間不足と、体力が続かないことで中止〉

講評・反省

一昨年にやったこのゲームは夏キャンでのスカウトいじめ（？）には最適である。特に、やる気をくじかない程度に、白熱するゲームで好評(!?)だ。また、おきてや訓練具の中身を再確認する意味でも彼らにとってインパクトのあるものであった。そして、今回は地理的条件のきつい信楽の坂道を使ったことで大変やりがいがあったと思う。

技能については、五十歩百歩という所だが、２年目を中心に日頃班集会でまじめに取り組んでいるようで、一年間の進歩が伺える。

優秀班：　鮫虎 班	報告者：隊長　今井　喜明

第２日目　夜　間　プログラム

プログラム名	夜間訓練『暗夜行路』
実施日時	平成７年８月１８日（金）　１９：４５～２０：４５
実施場所	信楽野営場　集会広場

内容

ポイントには聴覚により発見する。第１ポイントから第３ポイント間で、違った音を鳴らし、スカウトは順次その音を追っていく。

そして、ポイントでは臭覚、味覚、触覚を目隠しをして、五感を働かして進んでいく班対抗ゲーム。

臭覚、味覚、触覚とも４～５種類のものを用意し、それぞれが五感を頼りに当てていく。採点は個人で行い、班で集計して優秀班を決める。

当初の予定とは違い、ロープを使わなかったことでより五感が養えるものとなった。なお、ポイント移動中は目隠しはしていない。

説明・スタート　（河合）
Ｐ１：臭覚　（末吉）
Ｐ２：味覚　（出口）
Ｐ３：触覚　（江本）
ゴール　（入矢）

講評・反省

始め目隠しをし、張り巡らせたロープ伝いに進む予定であったが、立木があったり、コースがとれなかったりと足下が悪かったので、聴覚によるポイントの発見に変更した。

ゲームの内容を詳しく説明したため、スカウトの期待が少なかったことを残念に思う。しかし、各班のスカウトが協力しがんばったことは良かったと思う。「体の不自由な人の大変さがわかった」と言ってくれたことのスカウト達の優しさ、人の思いやる心に触れて嬉しく思った。

優秀班：　鮫虎 班	報告者：副長　河合　豊

第3日目 午後 プログラム

プログラム名	メイヤーの暗号を解け！
実施日時	平成7年 8月 19日 13:30 ～ 15:00
実施場所	本部サイト前広場

内容

ポイントを3つ置き 各ポイントに暗号として手旗、モールス、手旗モールスの3つの通信技能を設置。指示文 相定文、暗号の3つにより出された課題が解けるようにした。
各ポイントの答えはそれぞれ手旗が「頭とひざ」、モールスが「上腕」、手旗モールスが「足くびのねんざ」。
3班で競い合い、一番到達点に近かった班を優秀班とする
このプログラムの目的は各自の訓練具の装備、通信解読の早さ、救急の完成度を見るためのものである。

反省・講評

早朝のスカウツオリンピックで起きるのが早かったせいか午後プログラムが始まる前からスカウトに元気がなかった。まだスカウト技能の基本ともいうべき通信、救急が納得いくできでなく本部をがっかりとさせられた。今後の努力に期待したい。

優秀班： 野牛班	報告者： 出口 浩平

第3日目 夜間 プログラム

プログラム名	夜間ゲーム『古文書のありかをさがせ』
実施日時	平成7年 8月 19日 20:00 ～ 21:00
実施場所	砂防ダム上流 大広場一帯

内容

古くより栄香樂宮に伝わる古文書のかくし場所を書いた地図を見張りに気付かれず読み取って帰ってくる。
あらかじめ古文書の場所を書いた地図を準備 厳重に見張りをつける。見張りは地図の周囲に3名 スカウトの進路に3名置く
進路にいる見張りはしびれ薬の入った鉄を持っており この薬をかけられると全身がしびれて動けなくなるが 3分間げいれんをしつづけるとスタートラインに戻ることが出来る。
全員の協力で財宝をかくしとげること。

反省・講評

地図は実施直前で皮のようなものに書いた文字に変更。ハイキングの財宝地点を書いてあるが「たぬき」の3文字をぬかないと解読できない。結果的に2班は解読に成功。若干カブ的要素があるものの スカウト達の気持を"乗せる"為にはこのような単純なゲームも良かったのではないかと思う。
頭初の実施予定場所が鈴鹿地区キャンプリーの営火の為使用できず困惑したが結果は上々だった。今後事前調査は綿密に行うべきである

優秀班： 野牛班	報告者： 入夫徹雄

夏期キャンプ担当プログラム報告

報告者　末吉敦周

《 早朝プロ 》

・新しい試みであったので、もう少し慎重に考えた内容に出来ればよかった。
・予定より３０分も遅れてプログラムが始まった為に、せっかくの朝もやがなくなってしまい、ただ朝早いだけの集まりになってしまったのは、非常に残念であった。
・おかゆのできが悪かった。
・ほうれん草はなかなかおいしく出来上がった。
・「み光りのもと」を今回だけでなく、ゆっくり正確に唱和してもらいたい。
・水も大事に使えばコップ１杯で顔が洗えて、歯もみがけ、うがいも出来るのであるということを、今後のキャンプ生活に大いに役立ててもらいたい。

《 一泊ハイキング 》

◎４日目オリエンテーリング

・出発が大幅に遅れたため、スカウトには申し訳ない立場となってしまった。
・内容がまあまあであった？だけに、事前の準備が充分にできていなかったことが悔やまれる。
・炎天下であったが、倒れ込む者もなかったのは評価できる点である。
・フラッグを取り付ける時間配分をもう少し考えるべきであった。
・あまりスカウトの前を行き来することのない監視方法を、検討する必要があった。

◎一泊野営～５日目ハイキング

・テント、ガスバーナー等の配給備品の確認をしなかったため、スカウトに迷惑をかけてしまった。最低のミスである。
・信楽キャンプ場でさえも見ることの出来ない、満天の星空を岩尾池で見ることが出来たのが、せめてもの救いであった。
・出発の際の後始末に大きな課題が残る点は、もう一度スカウティングというものを考えてみる必要があると思われる。
・各ポイントにて、コースの切れ端がきちんと渡されなかった点について、あらかじめそのような事態も想定して、三雲の地図もスカウトに用意させておくべきであった。
・下見段階、並びに遭難対策に大きな課題が残る。

以上 簡単ではありますが、報告とさせて頂きます。

尚、出発が大幅に遅れ、長時間お待ち頂いた上にスカウトをスタート地点に送って下さった父兄の方々に、心より感謝いたします。
本当にありがとうございました。

営火報告

報告者：今井　喜明

『歓迎の営火』

実施日時：平成７年８月１７日（木）　１９：５０～２０：３０
実施場所：信楽野営場　集会広場

・進行内容

予定していた時間より、少し遅めの開始となった。これは本部側の責任であった。スカウトは19:30には、本部前に集合していた。

小さなボーンファイアーを全員で囲み、星空の下、歌と話で終始する今までにないやり方をとったため、スカウトにも新鮮で、ロケーションの良さもあり結構感動的なものとなった。

進行はスカウトが「キャンプの心意気」を話して、区切るのを本部がソング『ハイキング』の１小節だけを歌うことにしていたが、伝達時に本部内がばたばたしていたことで不十分であった。

また、予想以上にスカウトの話が短かったため、早く終わりかけたので、最後の方は予定より歌を増やして、時間をのばしてみた。

『大営火』

実施日時：平成７年８月２１日（月）　２０：０５～２１：３０
実施場所：信楽野営場　北方大広場

・進行内容

今回はレセプションの終了が遅れたことや、班の出し物を考える時間を与えることなどにより１時間遅れで始めた。

内容は計画通りのものを執り行え、昨年のようなしらけムードがあったものと一転して、素晴らしい営火となった。ただ、失敗点として電気着火が失敗したことが今後の改良点として課題を残す。また、出し物と出し物の伝達をスカウトにいかにスムーズにするかも今後再検討したい。

スタンツについては、野牛班が擬音や故事などを取り入れ、非常に高度なものとなった。また、他班もスタンツの出来はそこそこであってもソングなど非常に優秀なものが多かった。

講評・感想

今年のキャンプテーマは営火研究にあった。春キャンプと、80周年キャンポリーなどで研究、発表した、本年度の集大成がこの夏キャンプの大営火に当たる。結果として、この大営火は素晴らしいものであった。

確かに、鷲と鯱のスタンツは春の成果が見られなかったし、野牛も班長の一人芝居にも近かった。しかし、それは今後改善して行くべきことで、それがなくては、おもしろくない。また、反省点があったものの、声の大きさ、ソングの歌い方、ロケーションを考えた演技など、春に比べて目を見張るものがあり、嬉しく思う。そして、スカウト自身も同様に感動していたことに日記を見て感じ、とりあえず本年度の夏キャンの課題をこなせた思いだ。

総合評価

本年度夏季野営に関する全体的な評価

・プログラムについて

今年のプログラムは昨年に比べて、スケジュール的に楽にした。ただ、今年も、一泊ハイクを含む５泊６日の長丁場であったことは代わりない。ただ単に楽になったのではなく、スカウトが楽しむ活動に重点を置いた。また、プログラム担当者もそれを十分にふまえた上でのことであったので、中身は非常に濃くかつ、楽しい物であった。

しかし、今回の裏方では改善すべき所もたくさんあるように感じる。まず、毎日のプログラムを担当者以外カバーしていないところだ。この一番の原因はあらかじめキャンプ前に、プログラムに目を通していないところもあるだろう。当日も、自分の担当箇所以外の所にも気を配る配慮が指導者達にかけていたように思う。全員がプロを判っていることで、プロ中の予想外の変化にも臨機応変に対応できる。

今回のプロはスカウトに好評であったが、だらけがあったことは否めない。生活のリズムも考慮したプロをもう少し考えればもっとすばらしい物になったのではないか。

・ハイクにおける本部の改善

今回、隊長が不在なまま、ハイクに入り、代任の副長に事前の内容が通達されていなかったことで、少なからず混乱したと思う。やはり、事前の会議不足がたたった。ほかのプロにしてもそうであるが、現地に持ち越すやり方は見直す必要がある。

また、ハイクの担当者が文面を用意しなかったことで、全体的な流れを判っていない本部もいたことは今後気を付けるべきだ。しかし、今回のハイクに関しては担当制の意味を取り違えた計画、実施であったように思う。それは、担当者まかせになり、実施まで全てアシストできなかったことにある。１泊２日のプロを一人に任せっぱなしにしたことで、担当者の疲労やあせりがあったように感じる。また、担当者が短期間での下見、計画というのもスケジュール的に無理があった。これも事前の会議でほぼ完成された状況にしておくべきだった。支援できず、気づかなかった隊長以下、指導者は今後十分配慮すべきである。

・ハイクにおける下見の必要性の再確認

信楽は馴れているからといって、今年の下見の回数が少なかったわけではない。むしろ、多い方である。しかし、下見のメンバーが限られていたことや、実施コースが直前に決まったことで、本部の遭難やポイント間違い等があった。特にポイントに立つ人間や後発に関して必ず一度歩くべきである。また、今回もコースを間違うということがあることから、実施前は本部の読図の訓練を行う必要もあるかもしれない。

・スカウトの生活、環境

昨年同様、今年も５泊６日である点や、余裕のあるプログラムが多かったことから体力の疲労等は例年に比べ少なかったように思える。傷病の点では、初日の北野の頭痛と一年目スカウトの石の投げ合いによる切り傷くらいで、本部においては山田上班の原因不明（おそらく虫によるもの）の発熱くらいであった。ただ、１～２日目にあったために隊長がいない間のの健康と安全管理は本部以下、グリンバーも注意していたと思われる。

今回はボーイのキャンプとして恵まれた環境にあり、途中他県連との兼ね合いもあったものの地理的条件は良かった。しかし、天候は運が良いのか晴れ続きで、水の心配があった。また、気温も日中高いために水分の補給が問題であった。今回、お茶のパックの配給が少なかったことで、余分な出費が重なったことは今後反省点でもある。なければ自分たちで確保するという根本的な考えを本部スカウトともども再確認が必要だ。

・スカウトの規律面について

とにかく近年のスカウトは元気さが見えにくい。ただ、班活動や個々の活動時はうるさいほど元気だ。そこで今回のキャンプ中ソングの声が小さかったり、挨拶の声が小さかった場合は腕立ての罰ゲームを用意した。これによって、見る見るうちに...とまではいかないが、かなり意識して声を出すことが多かったようだ。

服装面に関してはやはり班内にいる間はチーフをしていなかったりと、かなりラフな格好であったが、制服もきれいに着こなすようになってきた。

また、プロの移動時間や配給の時間の厳守などは良くできており、反対に本部が見習わなければならない。

・本部の馴れ合いと今後の改善点

この項目に関して厳しく報告する。特に、今回は隊長以下全員がこのことに注意されたい。まず、「本部はスカウトより楽をし、スカウトよりも楽な生活環境にいる。」という考え方が定着している。確かに、プログラムの準備、安全管理等本部の仕事は山ほどあり、それをフォローする手段をとるべきではある。しかし、不必要な買いだし、車輌の多用、間食、さらに本部サイト内の散乱、水浴び、喫煙等スカウトに対して恥ずべき点が多かった。また、自主的な作業や作業を見つけるということが皆無だったよう思える。そのため、だらけたムードもしばしば見られた。

自分が彼らの気持になった時のことをもっと考えて奉仕し、スカウトに対して顔向けできない行為は無くしていくべきである。その点を今後キャンプに限らず気をつけていかなければならないと強く反省した。

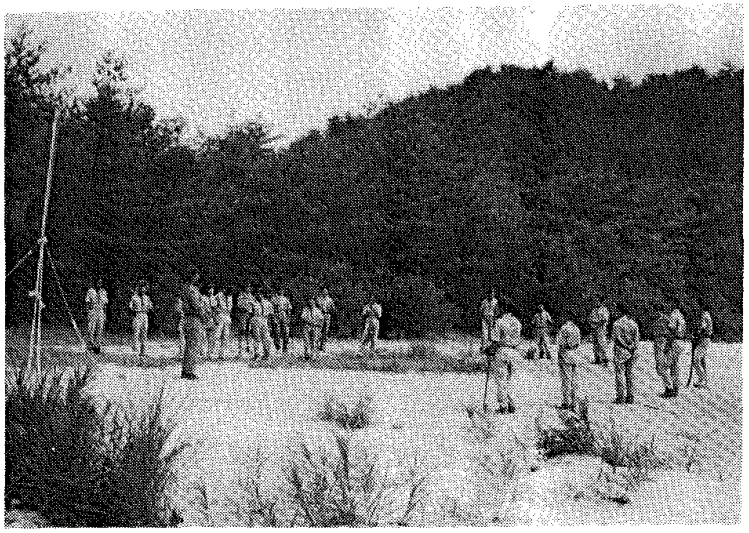
平成７年度　夏季野営　優秀発表

総合優秀班：　野牛班

個人優秀者：　岡本　紳嗣（鯱班）

勇者の証　：　山本　耕平（鯱班）

第一日目	優秀班	鷲班
第二日目	〃	鷲班
第三日目	〃	野牛班
第五日目	〃	鯱班



隊長の反省文

S.M.　今井喜明

なぜ、今年のキャンプは納得がいかなかったのか。なにが隊長として、自分に、そして本部に不満があったのか。キャンプが明けてから、約一ヶ月の間このことを考えてることが多かった。準備不足か、人に押しつけたせいか、はたまた今井喜明の性格の悪さか．．．。どれをとっても本部の人間は納得するかもしれないが、自分の未熟さを痛感したキャンプであった。

まず、一番の大きなミスは河合副長と末吉副長補に頼りすぎたことである。誤解の無いようにいうが、彼らのせいでミスをしたというものではない。仕事は十二分にこなし、成功させてもらった。あまりにも任せ過ぎで重荷をかけすぎ、フォローできなかった点が悔しい。実際、末吉に徹夜を何回もさせてしまい、それでも、時間的に焦らせてしまった。

それではこのような事態は避けられなかったのか。いや、事前の会議不足にあるのではないか。慣例(?)的に、プロの打ち合わせは前日にし、必要なことは担当者が準備しておくというやり方が今回、仇になった。もっと、全員でプロを把握し、見直し、有事の際にはフォローできることが必要ではないか。これは、今回もポイント間違い等における、全員の下見不足という点にも結びつく。それをしなかった、自分の判断の甘さを痛感した。

実際、自分が考えているほどスカウトの不満は少ないと思う。プログラム自体、楽しいものであったし、想定にも入り込みやすいように各自努力してもらった。スカウトの感想文からもそのことは伺える。しかし、同時に「楽だった。」という言葉に落胆した。スカウトが夏キャンに対する活動の方向性を見直させる必要があるものの、これは本部の態度からきているのも少なくないだろう。

２年目の隊長ということで、やはり力が抜けていたこと、夏キャンに対する心掛けが欠けていたことは悔しくも認めざるを得ない。本当に申し訳ないです。

この反省文は、隊長の反省に留まるつもりであったが、一言だけ小言をいう。「自分の仕事は与えられるものでなく、見つけるものである。」このことを心に留めて欲しい。人のことがいえる立場にないかもしれないが、せめてもの指導をさせてもらった。これは、今年奉仕を頂いたすべての本部員に送りたい。

来年は少なくとも今年よりも素晴らしいキャンプができそうだ。「もっと、よーなる。」とｼﾞｬﾈｯﾄ･ｼﾞｬｸｿﾝが言っているような平成８年度のボーイ隊に期待し、見守って頂きたい。及ばずながら、来年も隊長をさせて頂くようにお願いした。

最後になりましたが、今年の夏キャンプも財政面と献身的なご奉仕を頂いた団委員はもとより、保護者の皆様には心からお礼申し上げます。有り難うございました。

夏キャンプの感想　　河合豊

出発後すぐに頭痛を訴えるスカウト、そして今度は到着後怪我をするスカウト、寝冷で熱を出し病院で手当てを受けた人、…
スタッフ共々、自己の健康管理が欠けていた様に思う。
一年のしめくくりの夏キャンプ。今後は日々体力作りを強化して全員がベストの状態で参加出来る様頑張ろう。
一泊ハイクでは事前の準備不足でのアクシデントがあった。今後下見に行く時はスタッフ全員の協力が必要であると思う。
今年の一泊ハイクは軽かったけど　オリエンテイリング、上り階段の長へい登山道、夜空一面きらめく星空の下での夕食、そして流れ星…　また、朝の4時に太古の音で起こされ、ねむい目をこすりながら食べた精進料理の朝食、クロスワールドゲーム等のスカウトオン、皆大変良い経験をしたと思う。

私自身、今井隊長やハ矢副長をカバーし切れず反省している。
もう少し役務を忠実に自発的に行動出来る様努力したいと思う。
レセプション、大焚火共大変好評で良かったと思う。

お忙がしい中、そして暑い中用務の方々、父兄の皆様方
ご協力、お手伝いありがとうございました。

所　感

ＡＳＭ　入矢　徹雄

公私共に本当に多忙な一年でした。
特に　自然の力による　さまざまな現象が今まで経験した事が無いほど私の周囲に影響を及ぼし　一月以降は全くと言って良い位　自分の時間が取れない状況になってしまいました。　それでも何とか調整し　それなりの努力をしたつもりではありますが、結果的には　他のリーダー諸氏に随分とご負担を　おかけすることとなり　本当に申し訳なく思っております。　そんな訳ですから　この一年間の活動がどうこうと書けるものではありませんが　とぎれとぎれの奉仕の中で一つだけ感じた事のみを書かせていただきます。
ご承知の通りスカウトたちのニーズが年々変化して来ている事は　普段の彼等を見ていて　よくわかるところです。　どちらかというと今までよりも　それ以上に　”遊びたい”気持が感じられるのです。
しかるに　それがプログラムの中で　反映出来ているかといえば　むしろ後手に廻ったワンパターン的プログラムの繰り返しでしかないと感じているのは　私だけでしょうか。
リーダーもスカウトも　それぞれ多忙な中だからこそ　一日一日を大切にした一年間となるよう　努力すべきだと思うと同時に　自分自身も又反省するところです。

夏期キャンプの反省及び今後の課題

副長補 赤吉 敦周

この夏、キャンプ全日程を副長補という立場で奉仕させて頂き、信楽キャンプ歴４回目ながら新しい発見がいくつかあった。

まず私は、生活面でスカウト達と接する時はほとんどなく、本部サイト内の仕事と配給物資の運搬が主で、その他若干プログラムを担当させて頂いたが、スカウトがどうしたら楽しむことができるのか、またどうしたら快適に過ごしてもらえるのかといったことを考えることが、こんなに難しいものなのかと肌で感じることが出来た。このことは、スカウトとして、また上級班長として訪れたときとはまったく違った感覚であり、未だかつてなかった収穫といえよう。

プログラム内容それぞれの反省・講評については、スカウトの反省会での意見の欄を見て頂くとして、次に私個人のキャンプ全体を通した反省を述べる。

まず第一に、不十分なプログラムの計画から生じる失敗を改善する必要がある。この中で今回特に言えることは、スカウトに理解してもらい楽しませること以前に、まず各ポイントの担当リーダーに完全に理解してもらったうえで、再確認するという当たり前であり一番大切な段階をおろそかにしてしまった点にすべての原因があると思われる。今後、下見・指示文・準備の所要時間等しっかり行なった上、更に再確認を余裕をもって行なうようにしたい。

次に、もっと今以上にスカウトの気持ちになって、何事も考えていれば配給物資の渡し忘れなどなかったように思える。これは私だけでなく、他のリーダーにも言えるのではないだろうか。「自分達はリーダーだから、スカウトとはまったく違う世界なんだ。」といった気持ちでなしに、「自分がもし班キャンプに出かけたとしたら・・・。」とか、「もし自分がこうされたら、きっとリーダーをこう思うに違いない。」といった具合に、いつもスカウトの視線で考えていくことが大切なことであると思う。

最後に、今年は自分なりに新しい試みや、たとえ去年と同じものであっても違った切り口のプログラムに挑戦し、どういうものが今のスカウトにあっているのか、また向いていないのかということがだいたいわかり、自分としては非常に収穫の多い一週間であったと思う。たしかに経験スカウトにとっては、昨年よりも楽なプログラムだったかもしれない。けれども一年目が頑張ってついてこれる内容にすることが、基本と考えたのでそのようにしたのである。

それとボーイスカウトのキャンプは、本来苦しさや楽なものを求めるものではなく、楽しさを作り出す空間であり、そのことを絶対に忘れないでキャンプをして欲しい。では、いずれまたこのような機会が与えて頂けるならば、今回よりもいいものをというより、またその年にあった、その年でしか作れない新しい作品として、キャンプをつくっていきたいと思う。

信楽キャンプを振り返って

ボーイスカウト京都第３８団

ＢＳ隊副長補　出　口　浩　平

本部として四年目の夏、ここ信楽野営場でＢ・Ｓ隊夏期野営が行われた。信楽野営場で私がキャンプをするのは、今回で二回目である。初めてキャンプを行ったのは、私がＢ・Ｓ時代の二年目であった。当時、ラグビーの菅平合宿のため、一日目はこれず二日目からのキャンプ参加となり、班長以下班員のスカウトみんなから激しいブーイングをいただいたのを、今でも憶えている。

今年のキャンプは残念なことにキャンプが始まる前から病人が出て来た。一番困ったことは、上級班長がキャンプ中に熱を出して寝こんでしまった事である。本部の中から病人を出してしまった事に対して、スカウトには大変心配をかけただろうと思う。しかし、キャンプが終わる頃には、みんな元気に帰って来ることができ、大変嬉しく思う。いつ、何時、我が身にも降り掛かってくるかもしれないので、日頃から自分の健康管理を一人一人が充分に気を付けるべきだと改めて教えられた。

五泊六日という長いキャンプ生活の中で今年は例年に見られないものがあった。それは班長同志がそれぞれに刺激しあい、それによって班員達も刺激され、バラバラだった班が徐々にまとまっていった事だ。これは、スカウト活動にとって、とても良い傾向であり、これからも持続させ、より一層発展していってほしいものである。私がいま述べたことは、スカウト自身も少しながらも気ずいている事だろう。そして、それが班にとってとても大切な事だという事もわかっただろうと思う。四年目、三年目、二年目、一年目という縦のつながりばかりでなく、スカウトにはこういうスカウトの輪というものがあることが、分かっただけでも、今回のキャンプは、成功だったのではないだろうか。

感想

上班　山田泰央

僕は今回のキャンプで始めて本部側の人間として参加していろいろ学びました。

今回僕は上級班長として参加しました。だから僕の一言でスカウトみんなが動きます。もし行き帰りの電車で、僕がまちがってちがう電車にでも乗っていたらとんでもないことになっていたかと思うと『責任』というものの重大さを知りました。

また僕がまだボーイスカウトの時は本部には飲み物やお菓子があっていいなと思っていたけど本部はそんないいところではなかった。とくに寝る時間が少ないのがとてもつらかった。

今回のキャンプはつらい事が多かったけど貴重な体験ができてよかった。来年もずっとはいやだけど半分ぐらいの期間は参加したい。

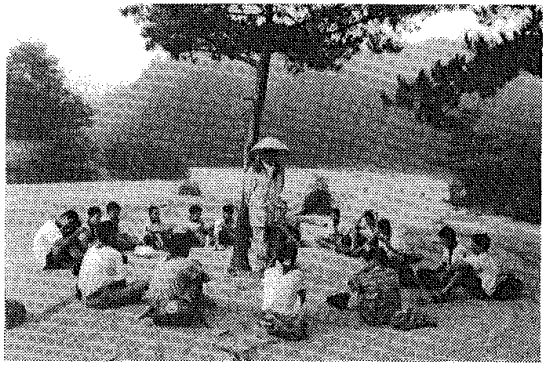
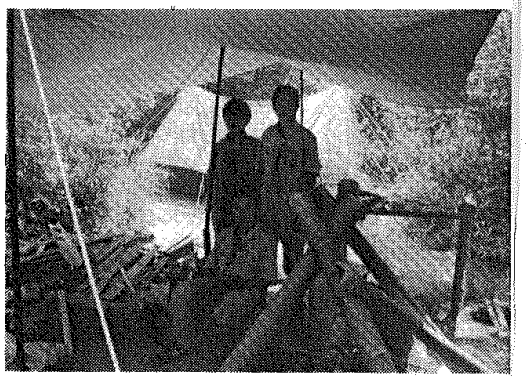
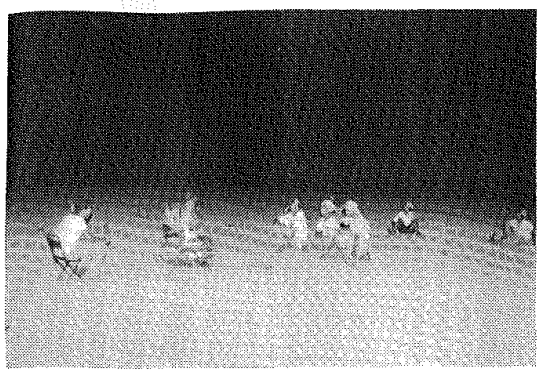
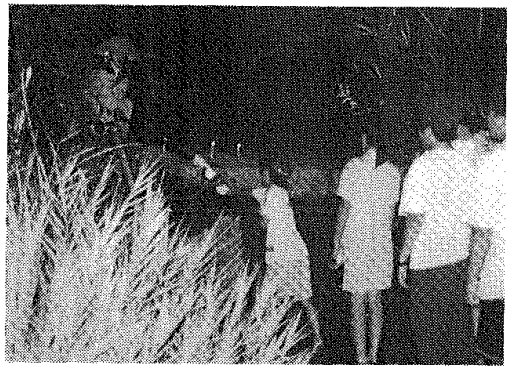
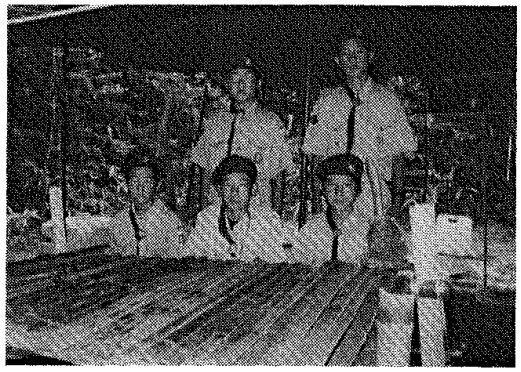
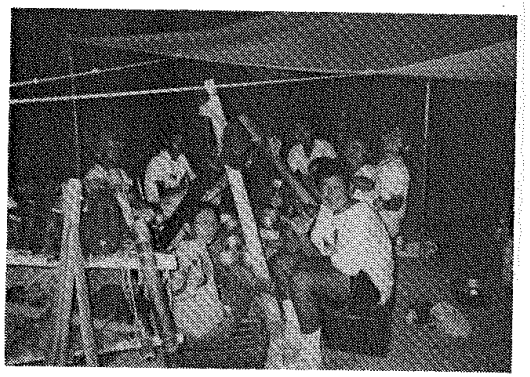
夏季野営の感想

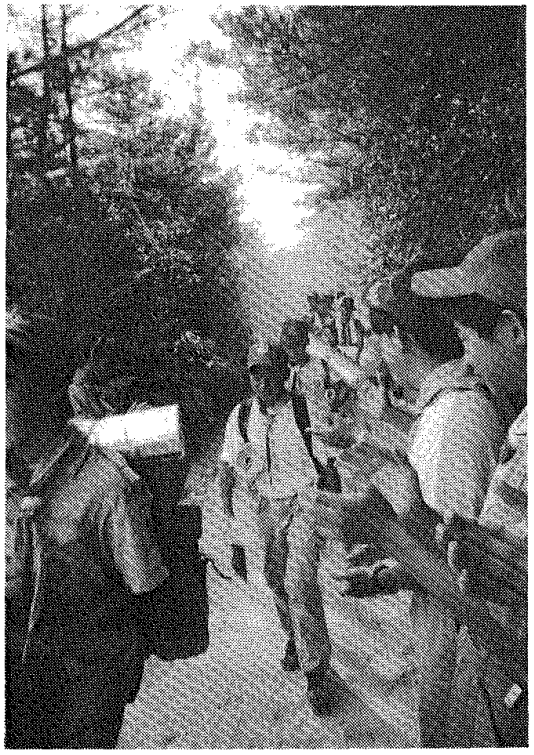
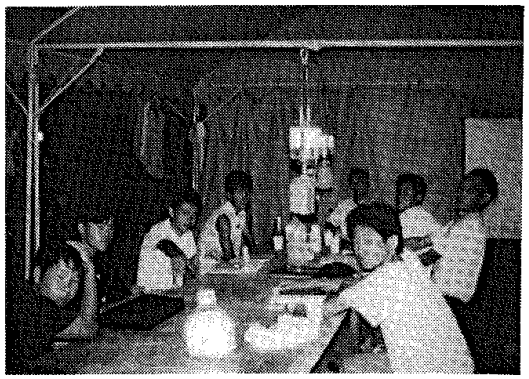
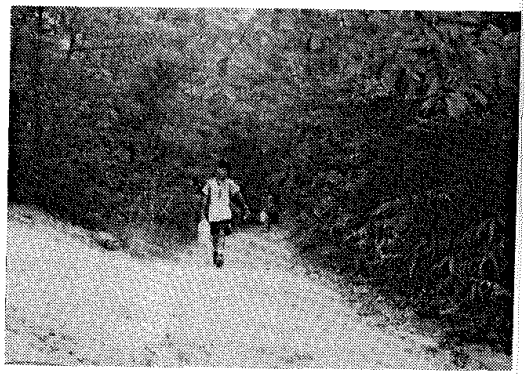
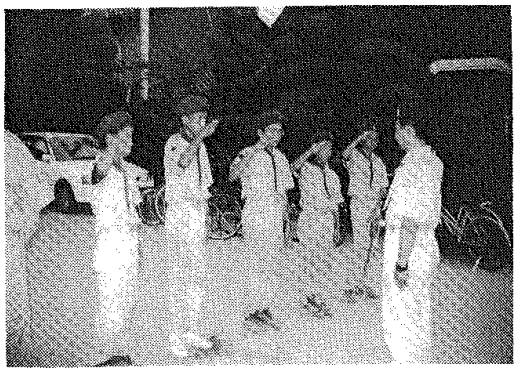
隊付　八木　創平

僕はこのキャンプで、去年とは全く違うキャンプを体験しました。僕は、夏季野営の本部は初めてなので、何をして良いのか分かりませんでした。とりあえず、言われた事をこなしていきました。

途中、山田上班が熱を出して倒れ、１日ぐらい上班代行をしました。隊付の時は、たいがい本部サイトで雑用をしているのですが、上班はスカウトのサイトを回ったり、班を手伝ったりと、上班の方が楽しかったです。

また、スカウトと話すことができたゲストナイトなどは、とても楽しかったです。でも、１番楽しかったのは大営火でした。２～３年前までは、営火はワンパターンで、あまり好きではなかったのですが、末吉副長補が積極的に歌を取り入れたり、スカウトのスタンツの指導などで、大変面白くなりました。僕も『山賊の歌』をやりました。僕と同じ年代がほとんどいなかったので、とても辛かったけれど、まあまあ楽しいキャンプでした。

平成７年９月１０日提出

ボーイ隊平成７年度夏季野営決算報告

摘要	金額
	（単位：円）
交通費：	４８，９９９
・市営地下鉄（烏丸鞍馬口－京都駅）	5,710
・ＪＲ（京都－貴生川）	19,440
・信楽高原鐵道Ｚ（貴生川－紫香楽宮跡）	10,190
往路　大人１３人　子供５人	
復路　大人１２人　子供３人	
・高速料金　（京都東－瀬田西）	6,400
計　８車輌往復分	
・ガソリン	7,259
計　２回給油分	
食費：	１９２，４５１
・先発、下見食費	15,343
・期間中食費（コンビニ代金含）	177,108
備品費：	７１，５６５
・新規購入備品費（補修部品含）	13,393
・燃料費（ガス、ガソリン、薪等）	45,204
・生活用品（文具含）	12,140
・その他	828
写真代：	６，５４２
・現像費のみ（フィルム代は含まない）	
反省会費：	１０，７１２
・マクドナルド（計２６人　400 円セット）	
総合計	３３０，２６９

※京都キャンポリーの参加費用等（￥25,750）は年間活動費及び隊費から支払った。

ボーイ隊　会計担当　河合豊

ボーイ隊　隊長　今井喜明

編集後記

毎年の事ながら報告書の提出が十月になってしまった。確かに九月の団会議は夏キャンの実施日だけに無理かもしれない。今回は夏キャン同様、報告書もあまりこっていないものでどこか気が抜けている。この報告書を読み直す度にこのことを反省したい。

さて、今年の夏キャンプで感じたことだが、あまり昨年の報告書が活用されていないように思う。私や副長等は何度も読み返し、当日にも持っていき、研究・反省したものだが、副長補以下にそれが見られない。また、昨年の経験者は自分を始めほかの隊員のものを見直し、役立てて欲しかった。なぜ、報告書があるのか、なにを気をつけなくてはいけないのかもう一度考え直したい。

その意味で、昨年の報告書の活用率は５０％位であった。来年はもう少し活用したい。また、この閲覧者がこの報告書の改善点やキャンプ自体の反省点、意見等を教えて頂いたら幸いである。

最後に今年の夏キャンプにご支援いただきました、団委員を始め保護者の方には献身的なご奉仕に敬意を表し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

編集責任者　今井　喜明

平成七年度ボーイ隊夏季野営報告書
提出日：平成７年１０月１日
発行：平成７年度ボーイ隊本部
編集責任：ボーイ隊隊長　今井喜明